

シャルル・ド・リーニュ「回想録」の研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学人文科学研究所 公開日: 2013-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯塚, 信雄 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/14410

この研究は筆者の多年にわたるヨーロッパ・ロココ文化研究及び18世紀ドイツ・ロココ文学研究の一環として試みられたものである。

飯塚 信雄

〔研究課題〕 シャルル・ド・リーニュ「回想録」の研究

〔発表誌・発行所〕 明治大学教養論集 235号

〔表題〕 シャルル・ド・リーニュ「回想録」(2)

〔梗概〕 ベルギーの大貴族で、ヴェルサイユとウィーン双方の宮廷と深いつながりを持つシャルル・ド・リーニュ侯は、オーストリアの元帥として19世紀初頭のヨーロッパ政局に大きな影響をあたえたが、同時に、18世紀のロココ時代を生きた文人として多くの著作を持っている。

筆者は、このうち、ブダペストで入手した「シャルル・ド・リーニュ回想録」をもとに研究を行い、その一部を明治大学教養論集第225号（1990年度）に発表した。今回は引続き、同論集の235号にその後の成果を発表することになった。